

2015年11月30日から12月13日まで、フランス・パリで、国連気候変動枠組み条約第21回締約国会議(COP21)が行われ、新たな法的枠組みとなる「パリ協定」を含むCOP決定が採択されました。ユース(ecoconスタッフ)とWWF(世界自然保護基金)ジャパンより寄稿をもらいました。

# 世界各国が力を合わせるといふ理想へ、「パリ協定」がつないだ希望



▶ パリ協定が採択された瞬間の会議場の様子。本会議場に入れる人が限られたため、WWFなどのNGOはモニター越しにその瞬間を見守った。



▶ COP21は政府代表が話し合う国際会議だが、会場のすぐ外では、積極的な温暖化防止を求めて、多くの市民がアピール行動をする姿が見られた。



▶ 温暖化の影響を受けるのは人間だけではないことを示す動物のオブジェ。フランスの作家が再生プラスチックを使って制作し、COP21の会場に展示された。

©WWF Japan / Yumi Sato

## 共通ルールは作れるか

人もモノも、国境を越えて行き交う現代。環境保全に取り組む上でも、「世界の国々が協力する」ことの必要性を感じる場面がたくさんあります。

代表的な事例は、やはり地球温暖化でしょう。二酸化炭素(CO2)を始めとする温室効果ガスは、世界が足並みを揃えて減らさなければ意味がありません。また、温暖化がもたらす影響は、すべての国に及びます。

WWF(世界自然保護基金)は、国際環境NGOとして、各国の政府に対し、積極的な温暖化対策をとるよう求める活動をおこなっています。

とはいえ、文化も、経済や社会の状況もさまざまに異なる国々が、温暖化防止のための共通ルールを作るのは大変なことです。しかも、そのルールづくりの場である国連気候変動枠組み条約の締約国会議は、多数決ではなく、参加した国(昨年の会議では196カ国)すべてが合意するまで話し合うという方法をとっています。これまで、何年にもわたって話し合いが続けられてきましたが、なかなか合意は作れませんでした。



パリのCOP21会場。正面玄関には、各国の国旗をあしらった柱が並んだ。COP21に参加した国は196カ国。

## あえて高い目標を

しかし昨年12月、フランスのパリで開かれた「第21回気候変動枠組み条約締約国会議(COP21)」で、ようやく「パリ協定」が採択されました。その内容で、特にWWFが目注しているのは、「世界の平均気温の上昇を、産業革命前に比べて2℃未満に抑える、そして1.5℃以下に抑える努力もする」と明記されたことです。「1.5℃以下」というのは、すでに温暖化による影響が現れ始めている島国や、開発の進んでいない途上国が、強く主張していた数字です。

現状からいえば、「1.5℃以下」という目標を達成するのは非常に困難です。それでも、合意を作るために目標を低くするのではなく、温暖化の影響に対して最も弱い立場にいる人々の意見を重んじ、あえて高い目標を掲げ、それに向かって努力する道を残したという点で、「パリ協定」には非常に重要な意味があるといえます。

この「パリ協定」を受けて、日本はどのような温暖化対策を進めていくのか。まさに「これから」が問われています。

## WWFの活動をぜひご支援ください

WWFは100カ国以上で活動する地球環境保全団体です。その活動はすべて皆さまからのご寄付や募金で成り立っています。ぜひ世界の自然保護に力を貸してください。



私たちはWWFです  
人と自然が調和して生きられる未来をめざして、地球環境の悪化をくい止めるさまざまな活動を実践しています。

[www.wwf.or.jp](http://www.wwf.or.jp)